

【概要】

製剤学関連の基礎理論としての物理化学的な性質と、製剤化への応用について理解する。

薬物を医薬品として用いる場合、その有効成分をそのまま用いることはほとんどなく、その薬物の効果を最大限に発揮し、副作用を防止、軽減、機能性や安全性を高めるために製剤化が必要になる。薬物を安全かつ有効に用いるには、薬物本体や製剤添加物の物理化学的性質の理解が必要となる。この講義では、内用製剤、液剤や外用製剤などの製剤の特性とそれらの製剤について、製剤の定義、品質を評価するための試験法と物理化学的性質、製造方法、製造に用いる添加物、品質を保持するための安定化や容器などについて、モノとしての医薬品を理解するための基礎理論を修得する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。